

【市町村事例】

さつませんだいし

薩摩川内市の生活排水処理対策への取り組みについて

鹿児島県薩摩川内市水道局下水道課

1. 薩摩川内市の概要

薩摩川内市は、鹿児島県薩摩半島の北西部に位置し、
かみこしきしま なかこしきしま しもこしきしま こしきしま
本土区域と上甑島、中甑島、下甑島からなる甑島
区域で構成されています。

平成30年3月末での人口は95,582人、面積は九州では4番目に広い682.92km²になります。

平成16年10月12日に隣接する1市4町4村が合併し、平成の大合併としては県内で最初の市として誕生しました。近年は、九州新幹線や南九州西回り自動車道等の公共交通網の整備や企業進出などにより北薩地域の拠点都市となってきています。地形の変化の美しい甑島、東シナ海に面し変化に富んだ白砂青松の海岸線、市街部を悠々と流れる一級河川「川内川」、ラムサール条約登録湿地である藺牟田池をはじめとする緑豊かで多種多様な自然環境を有しています。

これらの多彩で美しい自然環境は、甑島国定公園、川内川流域県立自然公園、藺牟田池県立自然公園に指定され、人々に親しまれています。また、このような恵まれた自然環境を利用し、川内川ではその水辺を利用して川内川花火大会やレガッタ大会が開催され、東シナ海に面した甑島ではアクアスロン大会や海辺の学校等のイベントが開催されるなど、希少野生動植物の保護、環境のすばらしさ、大切さを学習する機会として河川や海といった水辺環境を利用した自然と共生したイベントや学習にも積極的に取り組んでいます。



【川内川花火大会（ナイアガアラの滝）】



【レガッタ大会】

2. 生活排水処理状況及び生活排水処理計画の概要

(1) 生活排水処理状況

汚水処理施設については、公共下水道2処理区、農業集落排水5処理区、漁業集落排水3処理区、コミュニティ・プラント2処理区の計12処理区の集合処理で共用しており、それ以外の地域で個人設置型の浄化槽設置を推進しています。

平成29年度末の汚水処理人口普及率は74.2%まで改善してきましたが、全国平均の90.9%、鹿児島県平均の80.1%に比べ、まだまだ低い状況です。

【汚水処理人口普及率】

整備事業種別	人 口	普及率
公共下水道	9,874人	10.3%
農業集落排水施設	3,089人	3.2%
漁業集落排水施設	979人	1.0%
コミュニティ・プラント	1,368人	1.5%
合併処理浄化槽	55,597人	58.2%
合 計	70,907人	74.2%

【合併処理浄化槽の内訳】

市町村設置	212基
個人設置	13,023基
民間設置	2,258基
合 計	15,493基

(2) 生活排水処理整備計画

ア. 本市のアクションプラン（10年概成の取組）

①公共下水道の重点的な整備

（本土区域の川内処理区：約480ha、甕島区域の長浜処理区：約15ha）

- ②個人設置型の合併処理浄化槽の普及促進のため補助金の見直しや上乗せを検討
- ③受益者負担金等の減免や補助金制度の拡充による接続推進
- ④長寿命化計画等の策定による計画的な施設の更新
- ⑤処理区の統合による施設管理の合理化

※地方創生汚水処理施設整備推進交付金を活用し、合併処理浄化槽及び下水道を一体的に整備することにより、汚水処理人口普及率は10年間で21.5ポイント向上する見込です。（平成38年度末見込：95.1%）

イ. 長期的（20年）な整備計画

- ①施設管理の効率化のため、コミュニティ・プラント（永利処理区）の公共下水道への統合を検討する。
- ②公共下水道施設（浄化センター）をはじめ、処理施設の老朽化による多額の更新費用が見込まれるため、ストックマネジメント計画に基づき、改築更新を実施する。
- ③耐用年数を迎える設置時期の古い単独処理浄化槽や汲取り式トイレからの合併処理浄化槽への転換を促進する。

3. 「生活排水処理対策強化期間（平成29～31年度）」の取り組み

生活に密着した住宅の水周りの改善を促進し、快適な生活環境と生活排水処理の向上を図るため、平成29年度から平成31年度までを「生活排水処理対策強化期間」とし、下水道接続への助成制度として3年間に限定して、小型合併処理浄化槽からの接続の場合には受益者負担金（または分担金）を減免し、単独処理浄化槽または汲取り式トイレからの接続の場合には補助金を交付しています。また、下水道接続または合併浄化槽設置と同時

に住宅改修を実施する場合、この3年間に限っては、住宅改修の補助制度を2回（通常は1回）受けられるように拡充し、生活排水処理対策の推進を図っています。

4. 合併処理浄化槽設置費補助制度（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）

生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止し、生活環境の保全および公衆衛生の向上を図ることを目的に、市内の専用住宅に小型合併処理浄化槽を設置する方を対象に、補助金を交付しています。補助金の額は表のとおりですが、「単独処理浄化槽」を撤去し、「合併処理浄化槽」へ切り替える場合は、表の額に10万円を加算した額を交付しています。

なお、公共下水道・農業集落排水・漁業集落排水・地域下水処理施設の対象区域や、新たに下水道事業計画区域となった川内区域の平佐第二地区および甕島区域の長浜地区については、本補助金の交付対象となりません。

【補助金額】

区 分	補 助 金
5人槽	332,000円
7人槽	414,000円
10人槽	548,000円

【平成29年度実績内訳】

区 分	基 数
新築（新設）	304基
単独転換	11基
汲取転換	73基
合 計	388基

5. 啓発活動

- (1) 9月10日の「下水道の日」前後に市街地において「下水道フェア」を開催し、下水道や浄化槽についてのパネル展示、微生物の観察、指定工事店による無料見積相談を行い、来場プレゼントとして下水道汚泥の再生肥料と花苗を配布しています。



【下水道フェア（パネル展示）】



【下水道フェア（微生物の観察）】

- (2) 夏休みには、小学5・6年生及び中学生を対象に下水道のしくみや水の循環について理解を深めてもらうことを目的に「浄化センターの見学会」を実施しています。また、市内の多くの小学校からも社会科見学が実施されています。



【見学会（水処理のしくみの説明）】



【見学会（処理施設の説明）】

(3) 市内で開催されるイベント等に参加し、合併処理浄化槽や本市の汚水処理状況についてまとめたポスターの展示や公益財団法人鹿児島県環境保全協会と連携し合併処理浄化槽の模型の展示及び実験、リーフレットの配布等の啓発活動を行っています。



【浄化槽模型の展示】



【水溶物質の実験】

6. 今後の課題

現在、合併処理浄化槽設置整備事業の補助実績において、単独処理浄化槽及び汲取り式トイレから合併処理浄化槽への転換が約2割程度であり、これらの転換を促進していくためには、補助制度の見直しが必要となってきます。

また、高齢者世帯など転換へ消極的となる世帯も今後、更に増えてくることが予測されるため、下水道事業と併せて限られた財源のもと効果的な整備政策及び設置促進策を検討していくことが必要であると考えています。

7. おわりに

市街地を横断する一級河川「川内川」の水は、憩いとうるおいを恵むだけでなく、市民の生活を支える大切な資源でもあります。

本市においては、これからも市民一人ひとりが環境問題を意識するための効果的なPRや環境作りにより、後世に誇れる水資源を残すために今後も更なる環境保全に努めてまいります。



【市街地を横断する一級河川「川内川」】